

高野山を参拝して

こんにちは、スタッフの規夫です。2/18〜21、お墓の勉強会で京都へ行ったのですが、前泊で和歌山の高野山へ行きました。

真言密教の聖地である高野山は、弘仁7年(西暦816年)に弘法大師・空海によって開かれた根本道場(真言宗の総本山)で、嵯峨天皇から賜りました。

東西約6km、南北約3kmの中に両檀と呼ばれる二大聖地・壇上伽藍と奥之院をはじめ、金剛峯寺など百十七の寺院が建ち並んでいます。

高野山到着後、奥之院へ向かいましたが、高野山と聞いてここをイメージする方も多いのではないのでしょうか。

奥之院は、一の橋から入り、中間点の中の橋、そして弘法大師の御廟(ごびょう。先祖の霊や貴人の霊を祀る場所)がある御廟橋まで約2kmに及びます。



一の橋から奥之院に入りました

一の橋から御廟まで歩いてると名だたる戦国大名の墓が建ち並び、高さ3m以上の五輪塔や鳥居を見ていて、現代でさえ電車とケープルカーを乗り継いでようやくやく着くのに、交通手段のなかつた当時はどんな思いで山

奥まで石を運び、建てたのだろうと思いました。

高野山にこれほど戦国大名や有名人・企業の墓が集まる理由を調べると、お経に56億7000万年後に弥勒菩薩様が現れる場所の一つが高野山奥之院であると書かれていて、その瞬間に立ち会うために高野山にこぞって墓を建てるのは、まるでコンサートの特等席を

争う様だと感じました。

奇しくも高野山を訪れる前に木村拓哉主演の『レジェンド&パタフライ』を観ましたが、織田信長の墓と、信長を焼き討ちにした明智光秀の墓が同じ敷地内にあるのは不思議な感じがありました。気になった墓を3点掲載します。



①伊達政宗の墓。神仏混淆で仏教と神道が融合した墓で、五輪塔は3m以上ありました。



②UCC上島珈琲の墓。カップの中には珈琲を模した黒砂利が入っています。

③しろあり供養塔。仕事とはいえ命を奪うので、生き物に対する敬意を感じました。



御廟橋を越えると弘法大師が祀られていた御廟へ入りますが、ここから先は弘法大師が瞑想する聖域で撮影禁止の為、公式サイトから御廟橋の写真を掲載します。
引用元・・和歌山県公式観光サイト
<https://www.wakayama->

kanko.or.jp/



弘法大師は、835年3月21日、62歳の時に即身成仏として御廟に入定(真言密教の修行の一つで、無我の境地に至るために瞑想すること)しました。今も生きて瞑想しているとされ、毎日6時と10時半の2回、食事が提供されて

います。

現在、私たちが最も弘法大師の近くで参拝できるのは御廟前で、そこには柵があり、近付けくなくなっていました。

参拝後、1000年近く燃え続ける「消えずの炎」のある燈籠堂へ入ると、全国から献上された無数の灯籠が吊るされていて、時代を越えて受け継がれていく人々の思いもまた、高野山を聖地たらしめているのだと思いました。

その後宿坊へ移動しましたが、住職の奥様のお母様が浅虫出身、更に親戚とも繋がっていて、まさか和歌山に来て

青森に縁があるとは思いませんでした。

私は今回初めて高野山を参拝し、名だたる戦国武将が敵味方関係なく祀られ、何者をもおらかに受け入

れる真言密教の教えと弘法大師への信仰が今も息づいていると感じました。

弘法大師本人に会ったことのある人は今この世にいませんが、消えずの炎や信仰によって私たちは弘法大師やお釈迦様とのつながりを感じる事ができます。この世にあるものはほんの一部分で、本質は見えないものにこそあるのかもしれない。私も仕事を通してご先祖様とのつながりや、目に見えない大切な物を伝えていきたいと思っています。



坊・総寺院の入口で